

## 美学・西洋美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
美学・西洋美術史概論	アートの誕生現場：14世紀から現代まで	2	足達 薫	前期 月曜日 3 講時	
美学・西洋美術史概論	アートの誕生現場：14世紀から現代まで	2	足達 薫	後期 月曜日 5 講時	
美学・西洋美術史概論	美学・西洋美術史概論	2	フォンガロ エンリコ	前期 水曜日 2 講時	
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	前期 水曜日 4 講時	
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	後期 水曜日 4 講時	
美学・西洋美術史各論	ルネサンス美術における視覚的ユーモア	2	足達 薫	後期 月曜日 4 講時	
美学・西洋美術史各論	イタリア・ルネサンス庭園論	2	桑木野 幸司	前期集中 その他 連講	
美学・西洋美術史各論	古代都市ポンペイの美術と社会	2	芳賀 京子	前期集中 その他 連講	
美学・西洋美術史各論	美学特論 I	2	フォンガロ エンリコ	後期 水曜日 2 講時	
美学・西洋美術史演習	西洋美術研究：顔の表現に注目して	2	足達 薫	前期 金曜日 4 講時	
美学・西洋美術史演習	西洋美術研究：顔の表現に注目して	2	足達 薫	後期 金曜日 4 講時	
美学・西洋美術史演習	美学・西洋美術史演習	2	フォンガロ、エンリコ	前期 木曜日 5 講時	
美学・西洋美術史実習	美術作品の視覚的分析：入門編	2	足達 薫	前期 火曜日 3 講時 前期 火曜日 4 講時	
美学・西洋美術史実習	「空想の展覧会」の企画およびカタログ作成	2	足達 薫	後期 火曜日 3 講時 後期 火曜日 4 講時	

科目名：美学・西洋美術史概論／Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB31301 科目ナンバリング：LHM-ART202J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アートの誕生現場：14世紀から現代まで

2. Course Title (授業題目)：The Birthplace of Art: From the 14th Century to the Present

3. 授業の目的と概要：中世末期から現代にかけての絵画および彫刻の発展過程を理解するためには、「アーティスト」および「アート」という概念の形成過程を理解することが必要不可欠です。この授業では、信仰や崇拝の対象として制作されていた絵画や彫刻が、いかにして現代の私たちが知るアートへと「変容」していったかを、特に重要な役割を果たした作品および事例の分析を通じて概観します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to understand the development of painting and sculpture from the late Middle Ages to the present day, it is essential to understand how the concepts of "artist" and "art" were formed. In this course, we will look at how paintings and sculptures, which were originally created as objects of faith and worship, were "transformed" into the art that we know today through the analysis of works and examples that played a particularly important role.

5. 学習の到達目標：

アーティストおよびアートという概念の形成過程を具体的な作品および作家を通じて理解する。

美術作品の視覚的分析のための具体的な観点および手順（特にイコノグラフィー、様式と形式）を理解する。

14世紀から現代までの重要な美術作品を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the process of formation of the concepts of artist and art through specific works and artists.

Understand the specific perspectives and procedures (especially iconography, style and form) for the visual analysis of works of art.

Understand important works of art from the 14th century to the present.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1：アートとは？——コミック作品『QED』『ファイハの画集』を起点として

2：アートワールド

3：イコノグラフィー (1) 美術作品を分析する方法

4：イコノグラフィー (2) 「時代の目」

5：形式と様式

6：署名と自画像

7：アーティスト誕生の瞬間 (1)

8：アーティスト誕生の瞬間 (2)

9：炎上するアーティストたち

10：美術アカデミーの誕生

11：「本物そっくり」とは何か？

12：印象主義からファン・ゴッホへ

13：写真術とピカソ

14：アートの勝利？

15：アートの昨日と近未来

(注：資料作成の過程で発見した内容に基づいて変更することがあります)

(授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします)

8. 成績評価方法：

コメントカードと最終レポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で指示します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

メールアドレスは kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp です。(●は@)

科目名：美学・西洋美術史概論／Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB31301 科目ナンバリング：LHM-ART202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アートの誕生現場：14 世紀から現代まで

2. Course Title (授業題目)：The Birthplace of Art: From the 14th Century to the Present

3. 授業の目的と概要：中世末期から現代にかけての絵画および彫刻の発展過程を理解するためには、「アーティスト」および「アート」という概念の形成過程を理解することが必要不可欠です。この授業では、信仰や崇拝の対象として制作されていた絵画や彫刻が、いかにして現代の私たちが知るアートへと「変容」していったかを、特に重要な役割を果たした作品および事例の分析を通じて概観します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to understand the development of painting and sculpture from the late Middle Ages to the present day, it is essential to understand how the concepts of "artist" and "art" were formed. In this course, we will look at how paintings and sculptures, which were originally created as objects of faith and worship, were "transformed" into the art that we know today through the analysis of works and examples that played a particularly important role.

5. 学習の到達目標：

アーティストおよびアートという概念の形成過程を具体的な作品および作家を通じて理解する。

美術作品の視覚的分析のための具体的な観点および手順（特にイコノグラフィー、様式と形式）を理解する。

14 世紀から現代までの重要な美術作品を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the process of formation of the concepts of artist and art through specific works and artists.

Understand the specific perspectives and procedures (especially iconography, style and form) for the visual analysis of works of art.

Understand important works of art from the 14th century to the present.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1：アートとは？——コミック作品『QED』『ファイハの画集』を起点として

2：アートワールド

3：イコノグラフィー (1) 美術作品を分析する方法

4：イコノグラフィー (2) 「時代の目」

5：形式と様式

6：署名と自画像

7：アーティスト誕生の瞬間 (1)

8：アーティスト誕生の瞬間 (2)

9：炎上するアーティストたち

10：美術アカデミーの誕生

11：「本物そっくり」とは何か？

12：印象主義からファン・ゴッホへ

13：写真術とピカソ

14：アートの勝利？

15：アートの昨日と近未来

(注：資料作成の過程で発見した内容に基づいて変更することがあります)

(授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします)

8. 成績評価方法：

コメントカードと最終レポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で指示します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

メールアドレスは kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp です。(●は@)

科目名：美学・西洋美術史概論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LB33203 科目ナンバリング：LHM-ART202J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美学・西洋美術史概論

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)

3. 授業の目的と概要：西洋美学と西洋美学史の基本的な知識を得た上で、その翻訳の問題について理解する。東洋の美学との比較するための基盤をつくる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire basic notions about Western aesthetics and its history, and to understand the translation's problems related to this topic, in order to create a base for a comparison with Eastern aesthetics.

5. 学習の到達目標：

美、美的経験など、美学の基本的概念について古代ギリシャから現代までを概観する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to introduce some fundamental concepts related to aesthetics, such as "beauty", "aesthetic experience" and so on, from the Greek antiquity till contemporary thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは woc75br です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 美学とは何か
2. 「美」とは何か
3. 調和としての美 (1)
4. 調和としての美 (2)
5. 調和としての美の批判 (3)
6. 快楽としての美 (1)
7. 快楽としての美 (2)
8. アイデアとしての美 (1)
9. アイデアとしての美 (2)
10. アイデアとしての美 (3)
11. 悟性を超える美 (1)
12. 悟性を超える美 (2)
13. 美と崇高 (1)
14. 美と崇高 (2)
15. 試験

8. 成績評価方法：

期末テスト(持ち込みなし)によって評価する。ただし、オンライン開講になった場合は、毎回の課題の提出およびその内容によって評価する。(100%)

9. 教科書および参考書：

Classroomに適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：Some materials will be handed during the lessons on Classroom.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory R

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：森田 優子

コード：LB33407 科目ナンバリング：LHM-ART206J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術史文献精読

2. Course Title (授業題目)：Intensive Reading of Western Art History

3. 授業の目的と概要：欧文文献の精読を行い、美術作品を研究する基礎を身に着ける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read English texts in detail and their necessary knowledge for the research of art works.

5. 学習の到達目標：

西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students read accurately English texts of western art history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 講読 (1)

3. 講読 (2)

4. 講読 (3)

5. 講読 (4)

6. 講読 (5)

7. 講読 (6)

8. 講読 (7)

9. 講読 (8)

10. 講読 (9)

11. 講読 (10)

12. 講読 (11)

13. 講読 (12)

14. 講読 (13)

15. 講読 (14)

8. 成績評価方法：

授業への出席・発表 (50%)、期末課題 (50%)

9. 教科書および参考書：

イタリア・ルネサンスに关する美術作品についての文献を精読する。

Textbook: A variety of reading texts about Italian Renaissance art will be used.

10. 授業時間外学習：授業前に自分の担当部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

Students are required to read the designated textbook and translate its own assigned part for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory R

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：森田 優子

コード：LB43407 科目ナンバリング：LHM-ART206J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術史文献精読

2. Course Title (授業題目)：Intensive Reading of Western Art History

3. 授業の目的と概要：西洋美術史の研究を行う上で基礎となる欧文文献の精読を行い、美術作品研究の基礎を身に着ける。そのうえで、古典語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などにも目配りできるようになることが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read English texts in detail and their necessary knowledge for research of art works and to introduce the students to read the texts in other languages.

5. 学習の到達目標：

西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになるとともに、英語以外の言語についても調べられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students read accurately English texts of western art history and read the reference books in other languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 講読 (1)

3. 講読 (2)

4. 講読 (3)

5. 講読 (4)

6. 講読 (5)

7. 講読 (6)

8. 講読 (7)

9. 講読 (8)

10. 講読 (9)

11. 講読 (10)

12. 講読 (11)

13. 講読 (12)

14. 講読 (13)

15. 講読 (14)

8. 成績評価方法：

授業への出席・発表 (50%)、課題 (50%)

9. 教科書および参考書：

イタリア・ルネサンスにかんする美術作品についての文献を精読する。

Textbook: A variety of reading texts about Italian Renaissance art will be used.

10. 授業時間外学習：授業前に自分の分担部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

Students are required to read the designated textbook and translate its own assigned part for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB61406 科目ナンバリング：LHM-ART302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ルネサンス美術における視覚的ユーモア

2. Course Title (授業題目)：Visual Humor in Renaissance Art

3. 授業の目的と概要：美術という日本語に含まれた「美」という言葉は、しばしば、絵画や彫刻が美がかりでなく、もっと多様な感覚を生み出すという事実を忘れさせてしまいます。しかし、古代から現代まで、絵画や彫刻は笑いをも生み出してきました。この授業では、イタリアのルネサンス美術を対象として、視覚的ユーモアがいかにして生起していったかを具体的な作品を通じて理解します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The word "beauty" in the Japanese word "art" often makes us forget the fact that paintings and sculptures create not only beauty but also more diverse senses. However, from ancient times to the present, painting and sculpture have also produced laughter. In this class, we will look at Italian Renaissance art to understand how visual humor emerged through specific works.

5. 学習の到達目標：

美術作品を歴史的な文脈に位置づけて分析する視点と方法を理解する。

15～16 世紀イタリアの美術の主要な作品の流れを理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the perspectives and methods of analyzing works of art by placing them in historical contexts.

To understand the flow of major works of Italian art in the 15th and 16th centuries.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1：プロローグ——「笑う人を見ると笑いたくなる」？

2：ルネサンス文化における笑い

3：笑わせるためのいくつかの方法——アリストテレス『詩学』を起点として

4：エロス (1)

5：エロス (2)

6：パロディ (1)

7：パロディ (2)

8：逆転 (1)

9：逆転 (2)

10：比喻 (1)

11：比喻 (1)

12：皮肉 (1)

13：皮肉 (2)

14：誇張 (1)

15：誇張 (2)

(注：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)

(授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします)

8. 成績評価方法：

コメントカードと最終レポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で紹介します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください。

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：桑木野 幸司

コード：LB98825 科目ナンバリング：LHM-ART302J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア・ルネサンス庭園論

2. Course Title (授業題目)：Italian Renaissance Garden: Theories and History

3. 授業の目的と概要：西欧の庭園の歴史を、古代から盛期ルネサンスまで概観する。写真や動画はもとより、平面図や文章記録などを駆使して、過去の庭園の形態ばかりでなく、そこに充填されていた意味を読みとく。庭園とは古来、文化を映し出す鏡としての機能を帯びてきた。庭園を読み解けば、その時代の自然観や哲学・美学思想を間接的に理解することができる。そのための基本的な方法論を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Learn to analyze the History of Western Garden and Designed Landscape from Antiquity to Renaissance.

5. 学習の到達目標：

庭園様式の区分ができるようになること。形に込められた意味を読み解くことができるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：What you'll learn

-Basic knowledge on the garden culture in Europe.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イントロダクション

第2回 古代世界の庭園

第3回 中世庭園

第4回 近代における風景の発見

第5回 理想都市ピエンツァ

第6回 初期メディチ家のヴィッラと庭園

第7回 ドナーと・ブラマンテによる庭園芸術の革新

第8回 ルネサンス期ローマの芸術文化とヴィッラ・マダーマ

第9回 ヴィッラ・ジューリア、ヴィッラ・カステッロ

第10回 「庭の掟」と庭園の一般公開

第11回 植物園の誕生

第12回 ヴィッラ・デステ、ヴィッラ・ランテ

第13回 ボマルツォの怪物庭園

第14回 プラトリーノ庭園

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

出席およびレポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

(参考書) 桑木野幸司『ルネサンス庭園の精神史』(白水社、2019年)

10. 授業時間外学習：授業で紹介した文献を自分で読んだり、庭園作品を自分で見学に行く努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：



科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：芳賀 京子

コード：LB98826 科目ナンバリング：LHM-ART302J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代都市ポンペイの美術と社会

2. Course Title (授業題目) : Art and Society of Pompei

3. 授業の目的と概要：ナポリ近郊に位置するポンペイは、79年のヴェスヴィオ火山の噴火によって埋没し、18世紀になって再発見された古代都市である。ポンペイ周辺に良好に残る遺構や遺物を通して、古代ローマ世界の美術や社会についての知識を得ることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Pompei is an ancient Roman city which was buried under a thick layer of volcanic ash after the eruption of Mt. Vesuvius in 79 CE. The aim of this course is to obtain the fundamental knowledge about the art and the society of the ancient Roman world through well-conserved archaeological remains and artifacts excavated in and around Pompei.

5. 学習の到達目標：

ポンペイという都市のさまざまな空間内において美術作品が占めていた位置を理解し、古代ローマ世界における社会構造と美術の関係を検討する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are to understand the context of art works in public/private spaces of Pompei and to examine the relationship between the art and the social structure in the ancient Roman world.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ポンペイの歴史と社会
3. 広場と政治
4. 商店と貨幣経済
5. 神域と宗教
6. 劇場
7. 円形闘技場
8. 体育施設
9. 水道と浴場
10. 住居①
11. 住居②
12. 解放奴隷と美術
13. 葬礼と墓地
14. ポンペイ遺跡の発見とその後
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポートによる

9. 教科書および参考書：

ジュゼッピーナ・チェルツリ・イレツリ他編『ポンペイの壁画』、全2巻、岩波書店、1991年

ロベール・エティエンヌ『ポンペイ・奇跡の町：甦る古代ローマ文明』（「知の再発見」双書）、創元社、1991年

ロジャー・リング『ポンペイの歴史と社会』（世界の考古学）、同成社、2007年

10. 授業時間外学習：上記の参考書や、授業中に紹介する参考文献を含めて知識を深め、最終レポートの準備を進めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LB63210 科目ナンバリング：LHM-ART302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美学特論 I

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics(Advanced Lecture I)

3. 授業の目的と概要：西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を読み、理解する。この文献に基づき、美学の専門的なテーマについて分析、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course aims to read and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse and reflect on topics related to aesthetics.

5. 学習の到達目標：

西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対照しながら、美学の専門的なテーマについて分析、考察を行う。本年度は、ハイデガーの美学を中心に取り上げ、芸術作品とは何かについて特に論ずる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, and analysed by the students. This year, the course will deal with the question of what is a work of art, focusing on Heidegger's aesthetics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンライン（リアルタイム）で行います。

1. 導入 西洋美学史とは
2. 導入 現代美学について
3. ハイデッカーと 20 世紀の哲学
4. ハイデッカーの美学：『芸術作品の起源』(1)
5. ハイデッカーの美学：『芸術作品の起源』(2)
6. 『芸術作品の起源』：芸術作品とは
7. 『芸術作品の起源』：物と作品 (1)
8. 『芸術作品の起源』：物と作品 (2)
9. 『芸術作品の起源』：物と作品 (3)
10. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (1)
11. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (2)
12. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (3)
13. 『芸術作品の起源』：芸術家とは
14. 『芸術作品の起源』：美的経験とは
15. 期末試験

8. 成績評価方法：

期末試験（口頭試験）(100%)。

9. 教科書および参考書：

マルティン・ハイデッカー、『芸術作品の根源』（平凡社 2008 年）。

10. 授業時間外学習：Martin Heidegger, Der Ursprung des Kunstwerkes.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB55408 科目ナンバリング：LHM-ART306J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究：顔の表現に注目して

2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art: Focusing on the Expression of the Face

3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。今年度は特に「顔」の表現（人とは限らない。動物にも自然にも人工物にも「顔」はありうる）に注目し、それぞれの研究テーマや関心に惹きつけた問いを立てながら、年間を通じて最低 1 つの具体的な先行研究の読解およびそれへの反論や修正を行い、発表の準備を進めます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This year, we will focus on the history of Western art from ancient times to the present day, formulating "questions" about the works and artists, conducting research and analysis, and making presentations based on previous research. This year, we will especially focus on the expression of "faces" (not necessarily people, but animals, nature, and artifacts). This year, we will pay particular attention to the expression of "faces" (not necessarily human faces, but faces can be found in animals, nature, and artifacts as well), and while formulating questions that attract our respective research themes and interests, we will read at least one specific previous study throughout the year, refute or revise it, and prepare for our presentations.

5. 学習の到達目標：

西洋の美術作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を習得すること。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn how to analyze Western art works, formulate a "question" (argument), and present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：ガイダンス (1) 発表の目的とこれからの予定
- 2：ガイダンス (2) 問いの立て方と先行研究の調査方法
- 3：「問い」と先行研究についての報告
- 4：発表と議論
- 5：発表と議論
- 6：発表と議論
- 7：発表と議論
- 8：発表と議論
- 9：発表と議論
- 10：発表と議論
- 11：発表と議論
- 12：発表と議論
- 13：発表と議論
- 14：発表と議論
- 15：発表と議論

(註：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることもあります)

(授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします)

8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

それぞれ叩き台とする先行研究については授業で検討し、決定していきます。

10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査および読解、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

本演習は第 6 セメスターも連続して履修してください。

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB65407 科目ナンバリング：LHM-ART306J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究：顔の表現に注目して

2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art: Focusing on the Expression of the Face

3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。今年度は特に「顔」の表現（人とは限らない。動物にも自然にも人工物にも「顔」はありうる）に注目し、それぞれの研究テーマや関心に惹きつけた問いを立てながら、年間を通じて最低1つの具体的な先行研究の読解およびそれへの反論や修正を行い、発表の準備を進めます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This year, we will focus on the history of Western art from ancient times to the present day, formulating "questions" about the works and artists, conducting research and analysis, and making presentations based on previous research. This year, we will especially focus on the expression of "faces" (not necessarily people, but animals, nature, and artifacts). This year, we will pay particular attention to the expression of "faces" (not necessarily human faces, but faces can be found in animals, nature, and artifacts as well), and while formulating questions that attract our respective research themes and interests, we will read at least one specific previous study throughout the year, refute or revise it, and prepare for our presentations.

5. 学習の到達目標：

西洋の美術作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を習得すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn how to analyze Western art works, formulate a "question" (argument), and present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：発表と議論
- 2：発表と議論
- 3：発表と議論
- 4：発表と議論
- 5：発表と議論
- 6：発表と議論
- 7：発表と議論
- 8：発表と議論
- 9：発表と議論
- 10：発表と議論
- 11：発表と議論
- 12：発表と議論
- 13：発表と議論
- 14：発表と議論
- 15：発表と議論

(註：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることもあります)

(授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします)

8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

それぞれ叩き台とする先行研究については授業で検討し、決定していきます。

10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査および読解、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

本演習は第5セメスターから連続して履修してください。

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：フォンガロ、エンリコ

コード：LB54502 科目ナンバリング：LHM-ART306J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美学・西洋美術史演習

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

3. 授業の目的と概要：西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を精読し、理解する。美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論をする能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course aims to read carefully and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse, give presentations and discuss about topics related to aesthetics.

5. 学習の到達目標：

西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対象しながら、美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論を行う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, analysed and discussed by the students.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ドゥルーズとは誰か
2. ドゥルーズとシネマ
3. 『シネマ 1』：運動に関するテーゼ
4. 『シネマ 1』：フレームとショット
5. 『シネマ 1』：モンタージュ
6. 『シネマ 1』：モンタージュ
7. 『シネマ 1』：イメージとは
8. 『シネマ 1』：知覚イメージ
9. 『シネマ 1』：感情イメージ
10. 『シネマ 1』：欲動イメージ
11. 『シネマ 1』：行動イメージ
12. 『シネマ 2』：時間イメージ
13. 『シネマ 2』：時間イメージ
14. 『シネマ 2』：時間イメージ
15. 試験

8. 成績評価方法：

口頭試験 (80%) およびレポート (20%)。

9. 教科書および参考書：

ジル・ドゥルーズ、『シネマ 1、運動イメージ』、『シネマ 2、時間イメージ』。

10. 授業時間外学習：Gilles Deleuze, Cinema 1, L' image-mouvement; Cinema 2, L' image-temps.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

毎回の授業後に、授業でとりあげた映画を見るのが必須である。映画の上映については授業時に詳しく説明する。

科目名：美学・西洋美術史実習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB52307 科目ナンバリング：LHM-ART307J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品の視覚的分析：入門編

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Visual Analysis of Works of Art

3. 授業の目的と概要：西洋美術史を対象にして、美術作品の視覚的分析のための基本的な知識および技法を習得する。「作品研究ポスター」の作成を前期の課題目標とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will acquire basic knowledge and techniques for visual analysis of works of art in the history of Western art. The first semester's assignment is to create a "Research Poster".

5. 学習の到達目標：

美術作品の視覚的要素（構図、空間、色彩、線、モデリングなど）を客観的で分析的な言葉で記述し、作品の特質および魅力を提示する力を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire the ability to describe the visual elements of a work of art (composition, space, color, line, modeling, etc.) in objective and analytical terms, and to present the qualities and appeal of the work.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1：ガイダンス（方法と手順）

2：構図と空間

3：色彩

4：線

5：モデリング

6：人物像

7：ジャンル

8：宮城県美術館見学（予定）

9：作品カタログとデータベースの活用

10：作品記述の基礎知識

11：ポスター制作（1）課題設定

12：ポスター制作（2）中間報告

13：ポスター制作（3）中間報告

14：ポスター制作（4）中間報告

15：ポスター発表

（註：宮城県美術館への見学については変更の可能性があります）

（授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします）

8. 成績評価方法：

出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業中に指示します。

10. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（ポスター作成）が必要となります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

この実習は6セメスターでも連続して履修してください。

出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでもOKです）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに毎週水曜日 13:00～14:00 に研究室へ、または次のEメールへご連絡ください。Kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp（●は@に変えて送信してください）。

科目名：美学・西洋美術史実習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

Semester : 6 単位数 : 2

担当教員：足達 薫

コード：LB62307 科目ナンバリング：LHM-ART307J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「空想の展覧会」の企画およびカタログ作成
2. Course Title (授業題目)：Planning and cataloging of the "Imaginary Exhibition"
3. 授業の目的と概要：美術作品が有する視覚的特質を歴史および文化の中に位置づけ、作品の意義および価値を提示する能力を身につける、前期に行うポスター作成をさらに拡大強化し、「空想の展覧会」（フランスの文学者・文化史家アンドレ・マルローの概念に起因する）を企画し、カタログを作成するまでの作業を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will acquire the ability to present the significance and value of works of art by placing their visual qualities in the context of history and culture. They will expand and strengthen the poster creation process of the first semester, planning an "imaginary exhibition" (based on the concept of French literary and cultural historian André Malraux) and creating a catalog.
5. 学習の到達目標：  
美術作品の歴史的・文化的価値を明確に記述し、魅力的なコンセプトに基づく展示プランを立ててカタログを制作することにより、美術館や博物館などでの実践のための基礎的能力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By clearly describing the historical and cultural value of works of art, formulating an exhibition plan based on an attractive concept, and producing a catalog, students will acquire basic skills for practical use in museums and art galleries.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1：「空想の展覧会」のコンセプト——マルローから現代へ
  - 2：近代における美術作品の展示——礼拝価値から展示価値へ
  - 3：企画準備 (1) コンセプト
  - 4：企画準備 (2) 目玉作品
  - 5：企画準備 (3) タイトルと章構成
  - 6：企画会議——プレゼンテーション
  - 7：作品選定 (1)
  - 8：作品選定 (2)
  - 9：作品制定 (3)
  - 10：中間発表
  - 11：カタログ制作 (1)
  - 12：カタログ制作 (2)
  - 13：カタログ制作 (3)
  - 14：カタログ制作 (4)
  - 15：最終発表(注：状況に応じて、土日を利用した美術館見学も考えていますが現時点では未定です)  
(授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします)
8. 成績評価方法：  
出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：  
授業中に指示します。
10. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（カタログ作成）が必要となります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：  
この実習は第 5 セメスターから連続して履修してください。  
出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでも OK です）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに毎週水曜日 13:00～14:00 に研究室へ、または次の E メールへご連絡ください。Kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp （●は@に変えて送信してください）。